症例 2

健常者に生じ，治療に難渋した肺クリプトコックス症を合併した脳クリプトコックス症

[1]帯広厚生病院　神経内科，[2]大阪市立大学大学院医学研究科　感染制御学，[3]同　細菌学，
[4]国立感染症研究所　真菌部
堀内　一宏[1]　掛屋　弘[2]　金子　幸弘[3]　宮﨑　義継[4]

（症例）34 歳，女性

（主訴）なし（胸部異常陰影）

（既往歴）子宮頚癌（Ib 期）→広汎子宮全摘術（20XX 年 8 月），肺塞栓（20XX 年 8 月），家族性高脂血症（20XX 年 7 月），神経因性膀胱（20XX 年 8 月），B 型肝炎

（家族歴）父　心筋梗塞　家族性高脂血症　弟　家族性高脂血症

（社会歴）飲酒歴　機会飲酒　喫煙歴　なし　アレルギー　なし　動物接触歴　なし　海外渡航歴　中国，韓国，カナダ（カナダは腫瘤影の指摘があってから渡航）

（現病歴）

1 年前，子宮頸癌（stageIb）に対して広汎子宮全摘術施行され，肺塞栓を認めワーファリン内服が開始された．3 カ月前に，フォローの胸部 CT にて胸部異常陰影を指摘され当院に紹介された．入院後にスクリーニングで行った脳 CT，MRI にて多発腫瘤影を認めた．

（入院時一般身体理学所見）

身長 162.3cm　体重 61.8kg　体温 37.0 ℃，血圧 125/95mmHg　脈拍 85/分・整

肺音：清明　心音：整　腹部：平坦・軟　圧痛なし

神経学的陽性所見：軽度の眠気のみ

（入院時検査所見）

一般検血では WBC 7800/μL，Hb 13.4g/dL，Ht 43.3％，Plt 31.9 万/μL であり生化学検査でも肝機能，腎機能は正常で，CRP は陰性，HbA1c4.8％で耐糖能異常も認めなかった．HIV 抗体陰性，クォンティフェロン®TB-2G は陰性，クリプトコックス抗原価は 256 倍と上昇していた．髄液検査は浮腫をともなう多発脳病変が認められたため，施行しなかった．脳 MRI で右基底核，前頭葉，左脳幹部に多発する周囲に浮腫をともなった腫瘤影（cryptcoccoma）を認めた（Fig. 1）．胸部レントゲンでは右下肺野に，CT では右 S^{10} に径 4cm の腫瘤影を認めた（Fig. 2）．

（入院後経過）

本症例の臨床経過の概要を Fig. 3 に示す．脳，肺クリプトコッカス症と診断し，標準的治療とされているアムホテリシン B リポソーム製剤（L-AMB）6mg/kg 日＋フルシトシン（5-FC）100mg/kg/日による治療を行ったが無効であった．病変が拡大したためフルコナゾール（FLCZ），ボリコナゾール（VRCZ）に変更，最大用量を用いたが，左動眼神経麻痺および JCS200 程度の意識障害が出現し，クリプトコックス抗原価も上昇した．そのため，脳室内リザーバーを留置しアムホテリシン B（AMPH-B）脳室内投与を開始した．投与量は 0.05mg/回から開始し，4 週間かけて 0.5mg/回まで増量し，週 3 回施行した．脳室内投与にて発熱，頭痛，激しい嘔吐が生じたがベタメタゾン 2mg 静注を併用し，緩和された．意識障害が一過性に JCS200 程度まで増悪し，呼吸抑制が生じたため，全身管理を行いつつ脳室内投与を継続したところ，徐々に改善，脳室内投与開始 60 日後，脳 MRI にても病変の縮小をみとめ ADL も自立となった．肺病変は残存し，血清抗体価は依然高値を示したため，肺病変の根治と更なる脳への播種を予防する目的で外科的摘出を行った．イトラコナゾール（ITCZ）の経口投与を行い，脳室内投与を中止したところ，脳病変の増大を認めたため，脳室内投与を再開した．その後改善傾向であったが，17 カ月後に脳病変が再増大し，遅発性増悪と考えステロイド投与（メチルプレドニゾロン 1g/日 3 日間ののちに 60mg/日から漸減）を行い，改善した．脳

Fig. 1　脳 MRI　Gd FLAIR 像
右基底核, 前頭葉, 左脳幹部に多発する周囲に浮腫を伴なった腫瘤影（cryptcoccoma）を認める.

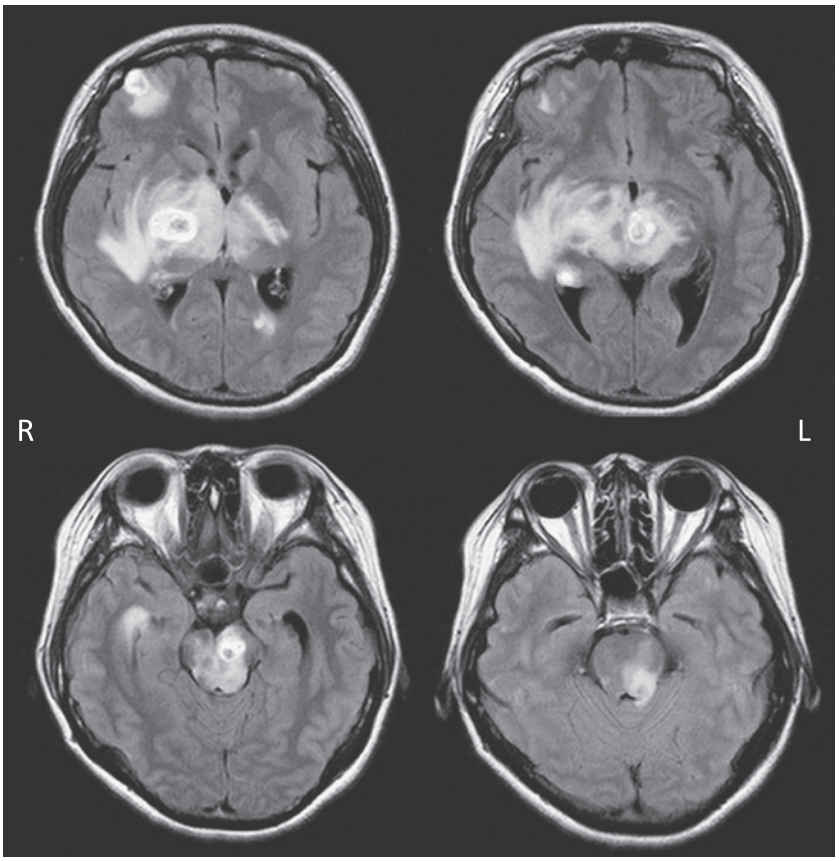


Fig. 2　胸部レントゲンおよび CT
胸部レントゲンでは右下肺野に，CT では右 S^{10} に径 4cm の腫瘤影を認める.

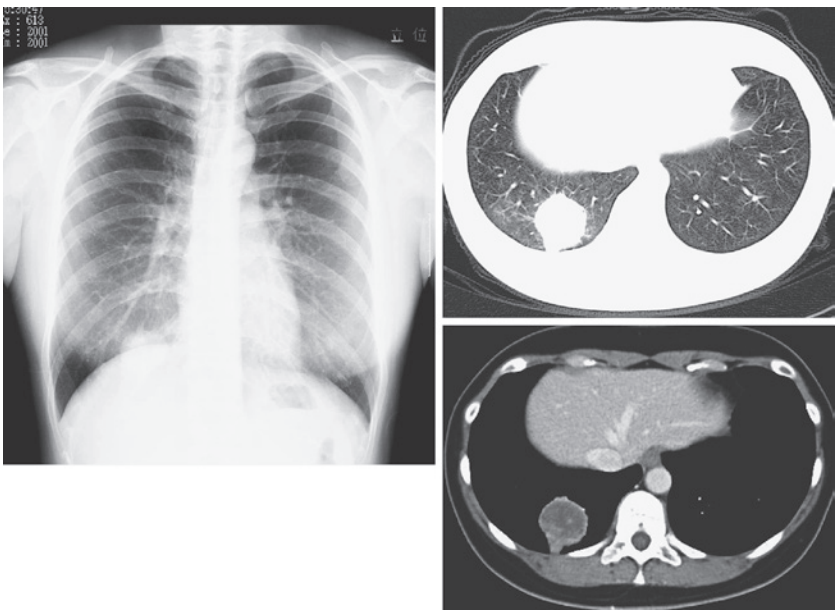
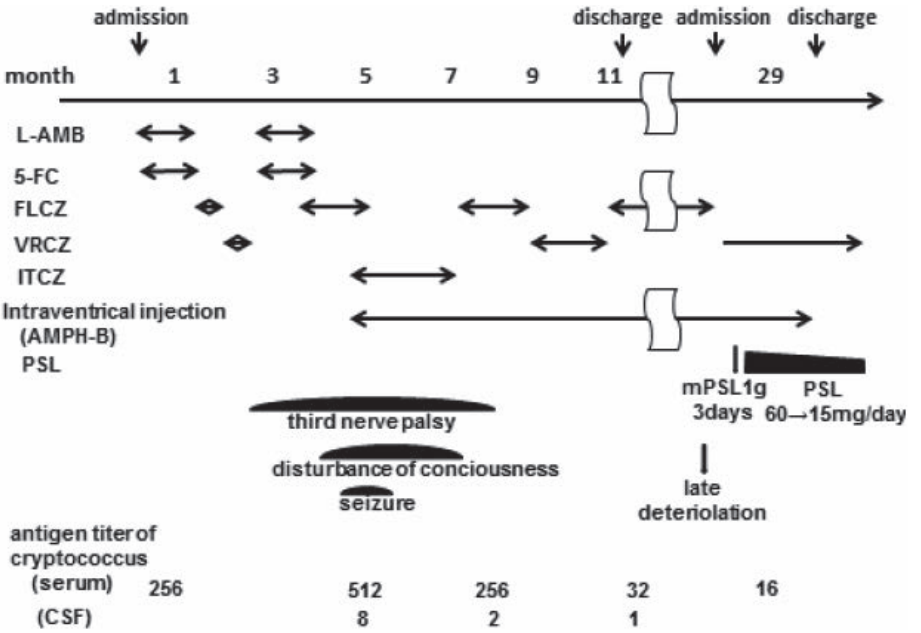


Fig. 3　臨床経過

標準的治療のみでは制御が困難であったため，脳室内リザーバーを留置しAMPH-B脳室内投与を開始した．脳室内投与にて発熱，頭痛，激しい嘔吐が生じたがベタメタゾン2mg静注を併用し，緩和された．脳室内投与開始60日後，脳MRIにても病変の縮小を認めADLも自立となった．肺病変の根治と更なる脳への播種を予防する目的で外科的摘出を行った．ITCZの経口投与に変更し，脳室内投与を中止したが脳病変の増大を認め，脳室内投与を再開した．その後改善傾向であったが，17ヶ月後に脳病変が再増大し，遅発性増悪と考えステロイド投与を行い改善した．



室内投与は19カ月後に中止し，VRCZ内服のみで経過観察しているが，発病2年半後の時点で再燃をみとめていない．難治性経過を辿ったため，肺切除病変より分離培養後，保存してあったクリプトコックス菌株について，国立感染症研究所真菌部においてCGB培地での発育能や遺伝子検査により，同定を行ったところ，*C. gattii*（VGI）であることが判明した．

（考察）

本症例は肺および脳のcryptococcomaを有する難治性のクリプトコックス症であった．通常のクリプトコックス症に推奨されている抗真菌薬による治療が無効であり，脳室内リザーバーよりの抗真菌薬脳室内投与，ステロイド投与の併用が奏効した．本症例では脳室内投与時にベタメタゾンを併用することにより，cryptcoccomaに対して効果を認め，脳室内投与後に悪化した際にもステロイドを併用し，脳室内投与を中止してもVRCZ内服のみで悪化をみとめていない．このような臨床経過から推察すると，ステロイド開始をより早期から行うことにより脳室内投与を施行せずに済んだ可能性も考えられる．

*C. gattii*によるクリプトコックス症の国内での疫学情報はまだ十分ではないが，*C. neoformans*に比べ病原性が高い可能性があり，重篤な免疫不全が無くても発症が認められる．また，通常の同定法では，*C. neoformans*と*C. gattii*は鑑別することが困難である．したがって，クリプトコックス症の診断に際しては，菌種同定も治療方針や臨床経過を考慮するためには重要である．特に，免疫不全を伴なわない健常者に発症したクリプトコックス症や難治性の症例では，*C. gattii*感染症の可能性を考慮して，可能なかぎり菌種の同定を行い，抗真菌薬脳室内投与やcryptococcomaに伴う浮腫やステロイド使用など積極的な治療法を検討すべきと考えられる．なお，本症例は，臨床神経学に症例報告を行った．

（最終診断）

高病原性*C. gattii*による肺および脳クリプトコックス症

（症例の疑問点から研究的考察へ）

本症例では，難治性の臨床経過から，高病原性の*C. gattii*によるクリプトコックス症を疑い，治療後

に同定検査を施行された症例である．一般の同定検査では，*C. neoformans* との鑑別が事実上不可能であり，認知度も高くないため，*C. neoformans* と診断されている症例も実際には埋もれている可能性がある．そこで，下記の 3 つの疑問点を挙げ，議論することとした．

本症例（高病原性 *C. gattii* による肺および脳クリプトコックス症）の疑問点

1. *C. gattii* 感染症の疫学
2. 標準的治療に抵抗性の場合，治療法は
3. *C. gattii* 感染はなぜ治療抵抗性か

謝辞：本症例の診断治療に際してご助力いただきました北海道大学神経内科秋本幸子先生，脳室内リザーバー留置につきご高配いただいた北海道大学脳神経外科宮本憲行先生，肺病変の切除につきご高配いただいた北海道大学第 2 外科加賀基地三先生に深謝いたします．

利益相反自己申告：申告すべきものなし

“本症例の疑問点”から“研究的考察”へ

[1]大阪市立大学大学院医学研究科　感染制御学，[2]同　細菌学，[3]国立感染症研究所　真菌部
掛屋　弘[1]　金子　幸弘[2]　宮崎　義継[3]

本症例（高病原性 *C. gattii* による肺および脳クリプトコックス症）の疑問点

1. *C. gattii* 感染症の疫学は？
2. 標準的治療に抵抗性の場合，治療法は？
3. *C. gattii* 感染はなぜ治療抵抗性か？

1. *C. gattii* 感染症の疫学は？

クリプトコックス症は，*Cryptococcus* 属の酵母様真菌，特に，日本では，大部分が血清型 A の *C. neoformans* による感染症であり，主な病型は，肺および中枢神経クリプトコックス症である[1]．*C. gattii*（血清型 B，C）は，*C. neoformans* の類縁種であり，同様の病態を示すが，病原性や感染経路がやや異なることが知られている．近年まで，*C. gattii* は，オーストラリアを中心に生息し，コアラの病原体として知られ，ヒトへの感染発病は少ないと考えられてきた．しかしながら，近年，発病率・死亡率が高い *C. gattii* によるクリプトコックス症が報告され，日本人渡航者も多い北米太平洋岸を中心に発生地域が拡大傾向にある．さらに，北米型の高病原性 *C. gattii* 感染症の日本人感染例が 2010 年に報告され，国内での動向が注目されている[2]．国立感染症研究所真菌部を中心として，厚生労働省の研究班を立ち上げ，国内のクリプトコックス症例から分離された株を同定し，遺伝学的手法による疫学解析や病原性に関する検討を行っている．

これまでに，100 株以上を解析した結果，そのほとんどが *C. neoformans* であることが分かってきたが，*C. gattii* も数株が分離されている[3]．流行地に限らず，渡航歴を持たない症例もあることから，国内での感染が存在することは明らかであり，国内に本菌が生息していることはほぼ間違いないと考えられる．

感染源は明らかになっていないが，*C. neoformans* が鳥の糞，在来型 *C. gattii* がユーカリ系樹木から分離されるのに対して，北米型はモミやハンノキなどの樹木から分離され，現地に生育する種々の樹木が感染源と考えられている[4]．感染経路も完全には明らかにはなっていないが，汚染された樹木・土壌から舞いあがった胞子を吸入することによる経気道感染が一次的な感染経路であることが推測される．

2. 標準的治療に抵抗性の場合，治療法は？

標準的治療法としては，*C. gattii* に対する特殊な治療法はなく，*C. neoformans* と同様の治療法が推奨されている．脳クリプトコックス症の第一選択は，L-AMB 2.5～6mg/kg/回 1 日 1 回点滴静注 4 週間＋5-FC25mg/kg/回 1 日 4 回経口投与 2 週間が推奨されている[5]．その後，FLCZ を 6～18 カ月投与することが推奨されており，症例によっては手術も考慮する．また，水頭症を伴う場合には，髄液ドレナージによる脳圧コントロールも重要で，VP シャントも検討する[1]．

本症例のように，標準的治療に抵抗性を示す場合，cryptococcoma と周囲の浮腫の存在が寄与していることを考慮すべきであると考えられる．周囲に浮腫が存在する場合には，全身投与では十分に局所に到達しない可能性がある．また，重症例に脳室内リザーバーを留置し，AMPH-B を脳室内投与し，救命可能であった症例も数例報告されている[6]．したがって，今回のように，重症例，治療抵抗例では，抗真菌薬の脳室内投与，早期からのステロイド併用が考慮すべき選択肢の一つである[7]．

ただし，抗真菌薬の脳室内投与，特に，AMPH-B の投与により，激烈な頭痛，嘔吐を伴うことも報告されているため，十分な説明と，副作用出現時の対応には十分に注意が必要である．

3. *C. gattii* 感染はなぜ治療抵抗性か？

本症例の菌株に関して，抗真菌薬感受性検査では，明らかな耐性を認めなかった（Table 1）．これまでに，抗真菌薬感受性が不良であることを示唆する報告はない．また，*C. gattii* の治療抵抗性の要因が十分に解明されているとは言いがたく，一般論として議論することは難しいが，本症例での治療抵抗性の原因は，脳脊髄膜炎を発症し，かつ，浮腫が強かったことが一因と考えられる．*C. gattii* は，疫学的には，*C. neoformans* よりも中枢神経系の合併症をきたしやすいことが指摘されており，前述のごとく，cryptococcoma を形成しやすいことが知られてい

Table 1　*C. neoformans*（H99 株）と *C. gattii*（北大株）の薬剤感受性比較

	AMPH-B	5-FC	FLCZ	ITCZ	VRCZ
H99 株（VNI）	0.25	1.0	1.0	0.12	0.06
北大株（VGI）	0.12	0.5	2.0	0.03	0.06

単位 μg/mL

た[8]．したがって，中枢神経クリプトコックス症の合併が，治療抵抗性に関与している可能性は否定できない．では，なぜ，中枢神経クリプトコックス症を合併しやすいのか？　こちらの問いに対する答えも，未だ推測の域を超えないが，一つには，*C. gattii* に対する免疫応答の違いが考えられている．我々の予備的検討においても，高病原性の株によるマウスの感染症モデルでは，肺内での肉芽腫形成が不良であり，炎症細胞に乏しいことがわかっている．また，*in vitro* で，マクロファージや樹状細胞に菌体を加えた場合，明らかにサイトカインの誘導能が，*C. neoformans* に比べて弱いことが分かってきた．したがって，免疫細胞から逃れた菌が，血流などを介して容易に脳に播種すると予想している．

治療抵抗性の要因については，今後の検討結果を待たなければ信頼しうる根拠は示せないが，上述のごとく，免疫応答の弱さが，*C. gattii* の高病原性と治療抵抗性に寄与している可能性が予想される．

おわりに

わが国にでも *C. gattii* の存在が示唆され，さらに，国内特有であることが示されつつある．病原性の強い *C. gattii* 株のわが国への定着が懸念され，深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014 にもその結果の一部が反映された．さらに，2014 年 9 月には，感染症法施行規則が一部改正され，5 類感染症全数把握疾患として，播種性クリプトコックス症が追加された．*C. gattii* のみを対象としたものではないが，*C. gattii* の国内発生を受けて，公衆衛生上の対策の必要性が認識されたためである．今後，中枢神経クリプトコックス症を含む播種性クリプトコックス症の実態調査によって，*C. gattii* の国内での発生状況の把握が期待される．

文献

1）掛屋　弘，金子幸弘，亀井克彦，渋谷和俊，宮崎義継，若山　恵，他：ガッティ型クリプトコックス症（*Cryptococcus gattii* 感染症）．輸入真菌症の診断・治療指針．輸入真菌症の診断・治療指針，協和企画，東京，2011；p. 101―5.
2）Okamoto K, Hatakeyama S, Itoyama S, Nukui Y, Yoshino Y, Kitazawa T, et al.：Cryptococcus gattii genotype VGIIa infection in man, Japan, 2007. Emerg Infect Dis. 2010；16 (7)：1155―7.
3）堀内一宏，山田萌美，白井慎一，高橋育子，加納崇裕，金子幸弘，他：脳室内抗真菌薬投与が奏効した *Cryptococcus gattii* による脳および肺クリプトコッカス症の 1 例．臨床神経学　2012；52 (3)：166―71.
4）Springer DJ, Chaturvedi V：Projecting global occurrence of *Cryptococcus gattii*. Emerg Infect Dis. 2010；16 (1)：14―20.
5）深在性真菌症の診断・治療ガイドライン作成委員会編：深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014，協和企画，東京，2014.
6）Diamond RD, Bennett JE：A subcutaneous reservoir for intrathecal therapy of fungal meningitis. N Engl J Med. 1973；288 (4)：186―8.
7）Perfect JR, Dismukes WE, Dromer F, Goldman DL, Graybill JR, Hamill RJ, et al.：Clinical practice guidelines for the management of cryptococcal disease：2010 update by the infectious diseases society of america. Clin Infect Dis. 2010；50 (3)；291―322.
8）Chen S, Sorrell T, Nimmo G, Speed B, Currie B, Ellis D, et al.：Epidemiology and host- and variety-dependent characteristics of infection due to Cryptococcus neoformans in Australia and New Zealand. Australasian Cryptococcal Study Group. Clin Infect Dis. 2000；31 (2)：499―508.

J Infect Chemother 21 (2015) 23–30

Contents lists available at ScienceDirect

Journal of Infection and Chemotherapy

journal homepage: http://www.elsevier.com/locate/jic

Original article

Clinical features of pulmonary cryptococcosis in non-HIV patients in Japan

Shigeru Kohno [a, *], Hiroshi Kakeya [b], Koichi Izumikawa [c], Taiga Miyazaki [a], Yoshihiro Yamamoto [d], Katsunori Yanagihara [e], Kotaro Mitsutake [f], Yoshitsugu Miyazaki [g], Shigefumi Maesaki [h], Akira Yasuoka [i], Takayoshi Tashiro [j], Mariko Mine [k], Masataka Uetani [l], Kazuto Ashizawa [m]

[a] Department of Respiratory Diseases, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan
[b] Department of Infection Control Science, Graduate School of Medicine, Osaka City University, Osaka, Japan
[c] Department of Infectious Diseases, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan
[d] Department of Clinical Infectious Diseases, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences for Research, University of Toyama, Toyama, Japan
[e] Department of Laboratory Medicine, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan
[f] Department of Infectious Diseases and Infection Control, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, Japan
[g] Department of Chemotherapy and Mycoses, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan
[h] Department of Infectious Disease and Infection Control, Saitama Medical University, Saitama, Japan
[i] Omura Municipal Hospital, Nagasaki, Japan
[j] Department of Health Sciences, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan
[k] Biostatistics Section, Division of Scientific Data Registry, Atomic Bomb Disease Institute, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
[l] Department of Radiology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan
[m] Department of Clinical Oncology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 25 December 2013
Received in revised form
3 August 2014
Accepted 21 August 2014
Available online 29 October 2014

Keywords:
Pulmonary cryptococcosis
Computed tomography
Non-HIV patient
Immune status
Cryptococcal antigen
Meningoencephalitis

ABSTRACT

Objective: To clarify the clinical features of pulmonary cryptococcosis in Japanese non-HIV population.
Methods: Retrospective investigation of 151 pulmonary cryptococcosis cases between 1977 and 2012 was executed. The underlying disease (UDs), aggravating factors, radiological characteristics, and treatment were examined.
Results: Sixty-seven patients (44.4%) had no UDs. The common UDs were diabetes (32.1%) followed by hematologic disease (22.6%), and collagen disease (22.6%). Peripherally distributed pulmonary nodules/masses were most commonly seen. Lesions in the right middle lobe ($p = 0.01$) and air bronchogram ($P = 0.05$) were significantly more frequent, respectively, in patients with UDs than patients without them. Azoles were mainly selected for the patients without meningoencephalitis. Mean treatment duration for patients with and without UDs was 6.64 and 2.87 months, respectively. Patients whose pulmonary nodules improved after treatment continued to experience gradual reduction of cryptococcosis antigen titers, even if antigen titers were positive at the time of treatment cessation. The average time for antigen titers to become negative after treatment cessation was 13.1 and 10.7 months for patients with and without UDs, respectively. When groups were compared according to the presence of meningoencephalitis complications, deaths, and survivals, factors contributing to cryptococcosis prognosis included higher age, hypoproteinemia, hypoalbuminemia, steroid use, high C-reactive protein levels, and meningoencephalitis complications.
Conclusions: It is crucial to consider the presence of UDs and meningoencephalitis for the choice of antifungals and treatment duration for cryptococcosis in non-HIV patients. Three- and six months-administration of azoles for pulmonary cryptococcosis with or without UDs, respectively is reasonable.

* Corresponding author. Department of Respiratory Diseases, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, 1-7-1 Sakamoto, Nagasaki 852-8501, Japan. Tel.: + 81 95 819 7273; fax: + 81 95 849 7285.
E-mail address: s-kohno@nagasaki-u.ac.jp (S. Kohno).

http://dx.doi.org/10.1016/j.jiac.2014.08.025
1341-321X/

1. Introduction

Cryptococcus neoformans is a nonmycelial, budding encapsulated yeast-like fungus found in soil contaminated with pigeon and chicken excreta [1–4]. Inhalation of cryptococcal particles from contaminated soil into the lung is considered the usual route of human infection [2,3]. The organism may cause isolated pulmonary infection or hematogenous dissemination involving the central nervous system (CNS), bones, and skin, mostly depending on the host immunity [2,3]. Although cryptococcal infection can occur in individuals with normal immunity, it most commonly occurs in immunocompromised hosts. Predisposing factors are acquired immune deficiency syndrome (AIDS) and other causes of impaired T cell–mediated immunity, e.g., transplant-related immunosuppression, hematological malignancies, corticosteroid administration, and diabetes mellitus [4–6].

Although the clinical characteristics and natural history of cryptococcosis in HIV patients have been described elsewhere due to its large number, those in non-HIV patients have rarely been reported [7]. To date, few studies have reported comparative data regarding the clinical manifestations, laboratory findings, radiographic findings and survival of patients with pulmonary cryptococcosis in Japan [8]. Additionally, very few research comparing clinical manifestation of cryptococcosis between HIV and non-HIV patients [9–11].

In Japan, the number of HIV/AIDS patients is relatively lower compared to those of other countries. However, it is increasing recently and over 20,000 of the cumulative patients are registered in Japanese government database to date (http://www.nih.go.jp/niid/ja/aids-m/aids-iasrd/2274-kj3888.html). Hence, the study of clinical manifestation of cryptococcal diseases in non-HIV background possess high impact. We reviewed 151 cryptococcal cases among non-HIV background and investigated the clinical features, including clinical manifestations, underlying conditions, laboratory findings, radiological features, treatment, survival, and outcomes.

2. Materials and methods

2.1. Patients

A retrospective cohort study was conducted by reviewing the medical records of patients who had been diagnosed with pulmonary cryptococcosis at Nagasaki University Hospital and its affiliated hospitals during the 35-year period between 1977 and 2012. The patients were grouped into 2 populations based on positivity of underlying diseases. Definite case of pulmonary cryptococcosis requires isolation or detection of *Cryptococcus* by lung specimen culture and/or by histopathological examination, and only definite cases are recruited in this study. This retrospective study including analysis and release of clinical data was approved by the ethical committee of Nagasaki University Hospital.

2.2. Clinical data

All available patient records were reviewed from the time of cryptococcal diagnosis until the patients died or were lost to follow up.

The data included clinical manifestations, underlying conditions, laboratory findings (age, lymphocyte count, neutrophil count, immunoglobulin, serum protein, serum albumin, CD4/8 ratio, CD4 count, C-reactive protein [CRP], cryptococcal serum antigen titers) at the timing of diagnosis, radiological findings, treatment, survival, and outcome were recorded.

Eiken Latex® (Eiken Kagaku Co., Tokyo, Japan) was used for the qualitative and semi-quantitative detection of the *C. neoformans* capsular polysaccharide antigen in serum and CSF according to the manufacturer's instructions.

2.3. Interpretation of chest CT scans

The findings of chest CT scans were assessed for 1) the presence and distribution of parenchymal lesions, including nodules, masses, and consolidation; 2) the characteristics of nodules and masses; and 3) related thoracic abnormalities such as pleural effusion and lymphadenopathy according to previous reports [12]. Based on the predominant parenchymal findings from the CT scans, the morphological characteristics were classified as solitary nodule/mass (type I), multiple nodules/masses (type II), and consolidation (type III). In addition, type II was subdivided into distribution in a single lobe (type IIa) and distribution in multiple lobes (type IIb).

2.4. Statistical analysis

We used FREQ, NPAR1WAY, and ANOVA in SAS. The chi-square test was used to compare the frequency of categorical variables (e.g., underlying disease, steroid usage). Wilcoxon's test was used to compare age, lymphocyte count, neutrophil count, serum protein, serum albumin, CD4/8 ratio, CD4 count, CRP, and cryptococcal serum antigen titers. The Eiken Latex® latex agglutination test was used to detect cryptococcal polysaccharide. Antigen titers were transformed to the logarithm to the base 2 ($Log_2[Ag + 1]$). Ag (cryptococcal antigen titer) is expressed as 0, 1, 2, 4, … as powers of 2 and Ag + 1 was expressed as $Log_2(0 + 1) = 0$.

For radiographic analysis, a chi-square test was employed to compare the presence and distribution of parenchymal lesions, nodule and mass characteristics except their number, and related thoracic abnormalities between the 2 groups. A Cochran–Armitage test was used to analyze the differences among 4 groups based on the number of nodules and masses, and among 4 morphological types based on the CT classification between the 2 patient populations. For all statistical tests, $p < 0.05$ indicated a significant difference.

3. Results

3.1. Patients

One hundred fifty-one patients were diagnosed with pulmonary cryptococcosis during the 35-year period between 1977 and 2012. Sixty-seven (44.4%) occurred in the patients without underlying diseases. Forty-two were men and 25 were women. Eighty-four cases (56.6%) were the patients with underlying disease. Thirty-eight were men and 46 were women.

3.2. Underlying diseases

Among 84 patients with underlying diseases, diabetes mellitus was most dominant (32.1%) followed by hematological diseases including human T-cell leukemia virus type-I carrier (22.6%), collagen disease including systemic lupus erythematosus, rheumatoid arthritis and others (22.6%), renal failure (16.7%), solid tumor (13.1%), chronic lung diseases including bronchiectasis, sequel pulmonary tuberculosis, and interstitial pneumonia (13.1%), liver disease including cirrhosis or hepatitis (9.5%), renal transplantation (2.4%), and other diseases (9.5%). Treatment with glucocorticoids (5–40 mg/day or pulse therapy) were recorded in 31 (37.0%) patients. Total of 5 patients were administrated glucocorticoids concomitantly with immunosuppressant such as cyclosporine and azathioprine.

3.3. Clinical symptoms

In 67 patients without underlying diseases, 43 (64.2%) patients were asymptomatic and detected accidentally by mass screening examination. Others had pulmonary symptoms such as cough ($n = 15$; 22.3%), sputum ($n = 4$; 6.0%), chest pain ($n = 7$; 10.4%), fever ($n = 2$; 3.0%), and others. In 84 patients with underlying disease, 39 patients (46.4%) were asymptomatic and found by abnormal chest radiograph findings taken as during routine examination of underlying diseases. Others had pulmonary symptoms such as cough ($n = 15$; 17.6%), sputum ($n = 15$; 17.6%), chest pain ($n = 3$; 3.6%), fever ($n = 20$; 23.8%), and other symptoms ($n = 19$; 22.6%).

3.4. Laboratory findings

The laboratory findings of the patients with and without underlying disease at the timing of diagnosis are shown in Table 1. The patients without underlying disease are statistically younger, better nutrition status reflected by higher total protein and albumin value, compared to those with underlying diseases. Serum antigen titers (Log_2[Antigen titer + 1]) were not different statistically in both arms.

Compared to steroid non-usage patients ($n = 114$), steroid usage patients ($n = 36$) were statistically significantly older ($p < 0.0001$), had lower lymphocyte count ($p = 0.03$), higher neutrophil count ($p = 0.02$), lower blood serum protein ($p = 0.0002$), lower blood serum albumin ($p < 0.0001$), and higher CRP ($p = 0.001$). There was no significant difference in IgG, IgA, or IgM between the two groups.

3.5. CT findings

Table 2 shows the detail of CT findings between patients with or without underlying diseases. The CT findings of 81 of 151 pulmonary cryptococcosis patients were analyzed. Forty-two and 39 patients were without and with underlying diseases, respectively. The frequency of the four CT classification types based on predominant parenchymal findings and lobar distribution of the lesions is listed in Table 2. Type IIb and type III lesions occurred more frequently in patients with underlying diseases than in those without underlying diseases. The main finding of this study is the presence of peripherally distributed multiple pulmonary nodules or masses with predominant lower lobe involvement in both patients without and with underlying diseases ($P < 0.0001$, Data not shown). Parenchymal lesions in the right middle lobe ($P = 0.01$), masses and more extensive lung involvement such as multiple lobes in distribution ($P = 0.06$) were more common in patients with underlying disease than those without underlying diseases. The number of masses (>30-mm diameter) ($P = 0.02$) and air bronchogram ($P = 0.05$) was significantly more common in patients with underlying diseases than those without underlying diseases.

Table 1
Characteristics of patients with cryptococcosis with or without underlying disease.

		State of underlying conditions						
		Patients without underlying diseases			Patients with underlying diseases			Wilcoxon test
	Criteria	*n*	Median	IQR	*n*	Median	IQR	*p* Value
1	Age	67	41	31	84	63	18.5	<0.0001
2	lymphocyte counts	54	1985.5	573.0	74	1429.0	1218.0	0.03
3	Neutrophil counts	55	3245.0	2403.0	75	4680.0	4273.0	0.02
4	IgG	32	1262.0	435.0	37	1343.0	891.0	0.31
5	IgM	32	142.0	71.3	37	145.0	96.0	0.49
6	IgA	31	249.0	142.0	37	275.0	169.0	0.39
7	Total protein	48	6.90	0.70	65	6.40	1.40	0.0002
8	Serum albumin	42	4.39	0.54	60	3.60	1.29	<0.0001
9	CD4/CD8	31	1.50	0.79	37	1.42	0.90	0.53
10	CRP	40	0.21	0.33	49	0.84	3.60	0.001
11	Cryptococcal antigen	56	16.00	124.00	63	32.00	252.00	0.35
12	CD4 counts	17	874.80	282.20	19	637.00	915.20	0.99

IQR: Inter Quartile Range, CRP, C-reactive protein.

Table 2
Comparison of CT findings of cases with pulmonary cryptococcosis with or without underlying disease.

	Patients without underlying diseases		Patients with underlying diseases		*p* Value
	n = 42	%	*n* = 39	%	
Mean of age (range)	47.4 (15–80)		61.4 (19–79)		
Sex (men: women)	26:16:00		18:21		
Presence of parenchymal lesions					
Nodule and masses	42	100.0	39	100	
Consolidation	3	7.1	7	18.0	0.14
Solitary nodules/ mass(type I)	14	33.3	9	23.1	0.30
Multiple nodules	25	59.5	29	74.4	0.15
Single lobe limited (type IIa)	10	23.8	5	12.8	0.06
Multiple lobe limited (type IIb)	15	35.7	24	61.5	
Consolidation (type III)	3	7.1	7	17.9	0.14
Distribution of parenchymal lesions					
Lobar distribution					
Right upper lobe	13	31.0	16	41.0	0.34
Right middle lobe	6	14.3	15	38.5	0.01
Right lower lobe	26	61.9	28	71.8	0.34
Left upper lobe	10	23.8	6	15.4	0.34
Lingura	3	7.1	5	12.8	0.39
Left lower lobe	20	47.6	17	43.6	0.71
Contact with pleura	33	78.6	33	85.0	0.48
Size (mm)					
1–30	31	73.8	16	41.0	0.02
31-	5	11.9	11	28.0	
Number					
1	15	35.7	11	28.0	0.85
2–4	10	23.8	10	26.0	
5–9	7	16.7	7	18.0	
10-	9	21.4	11	28.0	
Border					
Well-defined/ ill-defined	34/8	(81/19)	34/5	(87/13)	0.44
Margin					
Smooth/irregular/ speculated	20/21/19	(48/50/45)	12/27/20	(31/69/51)	0.25
Convergence of bronchi and vessel	35	83.3	31	79.0	0.65
Pleural identification	19	45.2	22	56.0	0.32
Internal characteristics					
Air-bronchogram	21	50.0	28	72.0	0.05
Cavitation	12	28.6	16	41.0	0.24
Calcification	1	2.4	0	0.0	0.33
CT halo sign	25	59.5	18	46.0	0.22
Satellite lesion	27	64.3	26	67.0	0.82

3.6. Serum cryptococcal antigen titer and radiological findings

The relationship of serum cryptococcal antigen titer and radiological findings were analyzed. Data from patients with

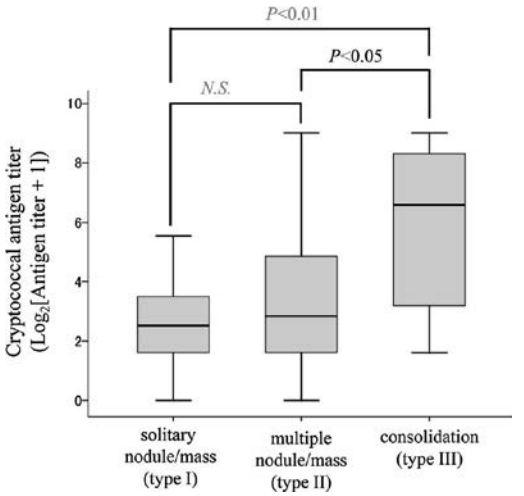


Fig. 1. The relationship of serum cryptococcal antigen titer and radiological findings. The morphological characteristics were classified as solitary nodule/mass (type I), multiple nodules/masses (type II), and consolidation (type III). Cryptococcal antigen titers were transformed to the logarithm to the base 2 ($Log_2[Ag + 1]$). Data from patients with meningoencephalitis was excluded.

meningoencephalitis was excluded. For patients with solitary nodules ($N = 14$), multiple nodules ($N = 34$) or consolidation ($N = 8$), comparison of the cryptococcal antigen titer (Log_2[Antigen titer + 1]) revealed no significant correlation between solitary and multiple nodules (N.S.); however, a significant higher cryptococcal antigen titer was observed in consolidation when compared with solitary nodules ($p < 0.01$) and multiple nodules ($p < 0.05$) (Fig. 1).

3.7. Antifungal treatment

The mainstay of initial treatment in both groups was azoles. Fifty-six (83.6%) patients without underlying diseases were initially treated with azoles, fluconazole (including Fos-fluconazole) ($n = 21$, 31.3%), itraconazole ($n = 4$, 5.9%), voriconazole (VRCZ) or miconazole (MCZ) ($n = 10$, 15.0%), azoles + 5-fluorocytosine (5-FC) ($n = 15$, 22.4%), or amphotericin B ($n = 3$, 4.5%). To patients with underlying diseases, fluconazole (including Fos-fluconazole) ($n = 30$, 35.7%), azoles plus 5-FC ($n = 17$, 20.2%), itraconazole ($n = 6$, 7.1%), VRCZ or MCZ ($n = 10$, 11.9%), and amphotericin B ± 5-FC ($n = 4$, 4.8%) were administered.

The median duration of fluconazole (Fos-fluconazole) treatment was 90 days (range 60–110 days) for patients without underlying disease. Five patients did not receive any antifungal drugs because they were initially suspected of having lung cancer and underwent pneumonectomy. Three patients without underlying disease were initially observed without any antifungals under informed consent, as the size and number of radiological abnormalities were reduced spontaneously and the serum cryptococcal antigen titers decreased within a few months.

Antifungal agents were administered for 6 months in all patients except three with refractory cryptococcosis among population with underlying diseases.

3.8. Transitional serum cryptococcal antigen titer before and after treatment

Forty definite cases (14 cases with underlying diseases and 26 cases were without underlying disease) which were followed until the serum cryptococcal antigen became negative or up to 45 months after treatment.

Titer changes in the latex agglutination test before and after therapy in patients without underlying disease and with underlying disease are depicted in Figs. 2 and 3, respectively. The mean duration of treatment for 14 patients without underlying diseases was 2.87 months. The cryptococcal antigen titer decreased for all cases after antifungal treatment. The cryptococcal antigen became negative in 13 of 14 cases following administration of antifungal agents. The mean period from treatment cessation to negative antigen observation was 10.7 months.

The mean duration of treatment for 26 patients with underlying diseases was 6.64 months. In the 22 cases where antigen titers

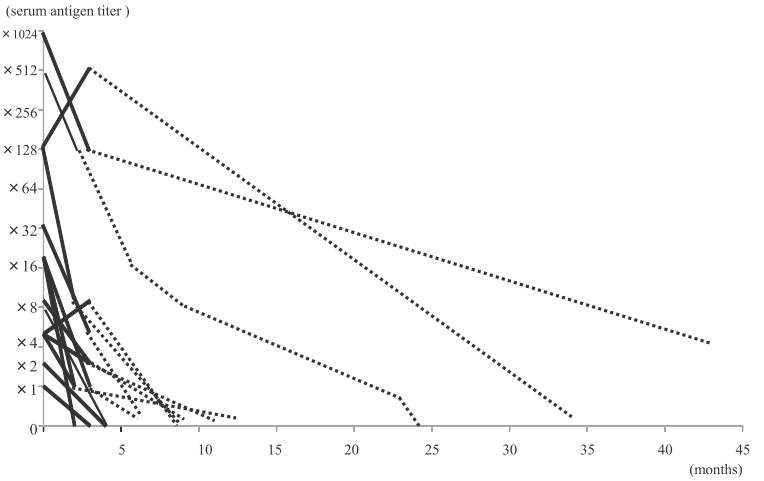


Fig. 2. Transitional change of the latex agglutination test after treatment in patients without underlying diseases. Solid line indicates the duration of treatment and dotted line indicates the following time after treatment. The mean duration of treatment for 14 patients without underlying diseases was 2.87 months. The cryptococcal antigen titer decreased for all cases after antifungal treatment. The cryptococcal antigen became negative in 13 of 14 cases following administration of antifungal agents. The mean period from treatment cessation to negative antigen observation was 10.7 months. The patients were followed until the serum antigen become negative or up to 45 months.

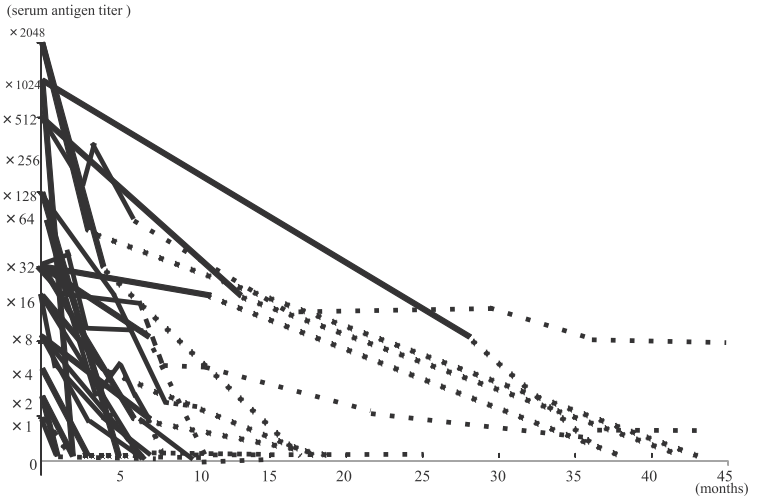


Fig. 3. Transitional change of the latex agglutination test after treatment in patients with underlying diseases. Solid lines and dotted lines denote treatment duration and duration of follow-up after treatment, respectively. The mean duration of treatment for 26 patients with underlying diseases was 6.64 months. In the 22 cases where antigen titers became negative after treatment, the mean period from treatment cessation to negative antigen observation was 13.1 months. The patients were followed until the serum antigen become negative or up to 45 months.

became negative after treatment, the mean period from treatment cessation to negative antigen observation was 13.1 months (Fig. 3). No significant difference was observed between two groups. The serum antigen titers were decreased after antifungals were discontinued.

3.9. Comorbid cryptococcal meningoencephalitis

In 151 of pulmonary cryptococcosis cases, 122 patients were performed lumbar puncture test. Fourteen patients (9.3%) presented CNS involvement. Four and 10 patients were without and with underlying disease, respectively (Table 3).

Fever (57.1%; 8/14), headache (35.7%; 5/14), and appetite loss or vomiting (35.7%; 5/14) suggesting CNS infection were observed. However, 2 patients had no CNS symptoms. The radiographic findings in patients with CNS involvement are shown in Table 3. Solitary or multiple nodules, consolidation, reticular shadow, granular shadow or mixed findings were observed in meningoencephalitis patients. Pulmonary shadows were seen in both lungs in 7 patients. In meningoencephalitis patients, all patients without

Table 3
Summary of cases with cryptococcal meningoencephalitis.

Age	Sex	Symptoms	Radiographic findings	Site of shadow	Underlying diseases	Steroid usage	Cr Ag	Treatment	Prognosis
28	M	Headache	Solitary nodule	rt. Middle robe	(−)	(−)	NA	AMPH-B + 5-FC	Improved
59	M	Cough, sputum	Consolidation	Both lungs	(−)	(−)	NA	AMPH-B + 5-FC, MCZ	Improved
62	M	Headache, cough	Multiple nodules	Both lungs	(−)	(−)	512	FLCZ + 5-FC	Improved
80	M	Fever, headache, vomiting, lumbago	Consolidation	rt. Middle robe	(−)	(−)	2046	FLCZ + 5-FC	Improved
48	F	Fever, appetite loss	Reticular shadow	Both lungs	SLE, NS	(+)	NA	(−)	Death
75	F	Fever, headache, consciousness disorder	Granular shadow	Both lungs	ATL	(−)	2048	FLCZ + 5-FC	Death
60	F	No symptom	Solitary nodule	rt. Lower lobe	DM	(−)	1	MCZ + 5-FC, FLCZ	[a]
73	F	Fever, cervical lymph node enlargement	[a]	[a]	ATL	[a]	128	FLCZ + 5-FC	Death
61	M	Headache, change in personality	Consolidation	rt. Lower lobe	SLE、APS	(+)	1024	AMPH-B + 5-FC	Improved
76	F	Fever, vomiting	Multiple nodules + consolidation	Both lungs	DM, RA	(−)	NA	FLCZ + 5-FC	Improved
86	M	fever, respiratory discomfort	diffuse GGA	Both lungs	CRF	(−)	1024	F-FLCZ	Death
74	F	Fever	Multiple nodules	rt. Lower lobe	RA, CRF, amyloidosis	(+)	1024	FLCZ + 5-FC + AMPH-B	Death
74	M	Fever, appetite loss, general fatigue	Solitary nodule	lt. Lower lobe	Wegener's granulomatosis	(+)	256	FLCZ + 5-FC	Improved
60	M	Appetite loss, general fatigue	Multiple nodules	Both lungs	ATL, DM	(+)	NA	FLCZ + 5-FC	Death

ATL, Adult T cell leukemia; SLE, systemic lupus erythematosus; NS, nephrosis syndrome; DM, diabetes mellitus; RA, rheumatoid arthritis; CRF, chronic renal failure; APS, antiphospholipid antibody syndrome, rt., right, and lt., left; Cr Ag, Cryptococcal antigen titer; NA, not available. AMPH-B, amphotericin B; 5-FC, flucytosine; FLCZ, fluconazole; F-FLCZ, fos-fluconazole; MCZ, miconazole.

[a] Data was missed.

Table 4
Summary of patients who died of cryptococcosis.

Age	Sex	Radiographic findings	Site of shadow	Underlying condition	Steroid usage	Treatment	Meningoencephalitis	Diagnostic methods
40	M	Consolidation	Both lungs	ML	(−)	MCZ + 5FC, AMPH-B+5FC	(−)	TBLB
57	M	Consolidation	Both lungs	DM.LC.ATL, HCC	(+)	AMPH-B + 5FC, ITZ, FLCZ	(−)	TBLB
64	F	Consolidation	Both lungs	ATL	(−)	FLCZ	(+)	Sputum culture
69	F	Consolidation	rt. Upper lobe	LK	(+)	FLCZ+5FC	not done	BALF culture
86	M	Diffuse GGA	Both lungs	CRF	(−)	F-FLCZ	(+)	Sputum, CSF, Urine, blood culture
48	F	Reticular shadow	Both lungs	SLE, NS	(+)	(−)	(+)	Autopsy
75	F	Consolidation	Both lungs	Bladder tumor	(−)	(−)	(−)	Autopsy
62	F	Consolidation	Both lungs	PN, ARF	(+)	FLCZ, MCZ	(−)	Autopsy
75	F	Granular shadow	Both lungs	ATL	(−)	(−)	(+)	Autopsy
82	F	Consolidation	both lungs	RA, miliary TB	(+)	(−)	not done	Autopsy
66	M	Interstitial shadow (by underlying disease)	both lungs	IP	(+)	(−)	not done	Autopsy
73	F	Consolidation	both lungs	ATL	[a]	FLCZ+5-FC	not done	Sputum culture
74	F	Multiple nodules	rt. lower lobe	RA, CRF, secondary amyloidosis	(+)	FLCZ+5-FC + AMPH-B	(+)	BALF, CSF, blood culture
60	M	Multiple nodules	both lungs	ATL, DM	(+)	FLCZ+5-FC	(+)	BALF, CSF, blood, prostatic fluid culture

GGA, ground-glass attenuation; rt., right; ML, malignant lymphoma; DM, diabetes mellitus; LC, liver cirrhosis; ATL, adult T cell leukemia; HCC, hepatocellular carcinoma; LK, lung cancer; CRF, chronic renal failure; SLE, systemic lupus erythematosus; NS, nephrosis syndrome; PN, polyarteritis nodosa; ARF, acute renal failure; RA, rheumatoid arthritis; TB, tuberculosis; IP, interstitial pneumonia; TBLB, transbronchial biopsy; BALF, bronchial alveolar lavage fluid, and CSF, cerebrospinal fluid. AMPH-B, amphotericin B; 5-FC, flucytosine; FLCZ, fluconazole; ITZ, itraconazole; F-FLCZ, fos fluconazole; MCZ, miconazole.
[a] Data was missed.

underlying disease were improved; however, 6 of 10 patients with underlying disease died. One patient did not have underlying disease; the other had a previous history of diabetes.

3.10. Pulmonary cryptococcosis patients who died

Overall cryptococcal-related mortality was 9.4% (14/151). Mortality in patients with underlying diseases was 16.7% (14/84). No patients without underlying diseases died of cryptococcal-related disease. Some patients harbored underlying conditions such as hematologic disease and malignant tumors; the cause of death in many cases could be traced to worsening underlying disease.

The radiographic finding of most of the patients who died revealed consolidation (57.1%; 8/14) and in both lungs (85.7%; 12/14), suggesting disseminated cryptococcal infection. Six of the deceased patients were diagnosed by autopsy without any anti-cryptococcal treatment. The progression of serum antigen titers could not be observed continuously in the patients that died. Only one patient relapsed (Table 4).

3.11. Laboratory data correlated to meningoencephalitis and outcome

The clinical features including laboratory data in the patients with and without cryptococcal meningoencephalitis, and outcome are compared in Table 5.

Older age, lower lymphocyte counts, higher neutrophil counts, lower serum total protein, lower serum albumin, low CD4/8 ratio, high CRP and higher cryptococcal antigen titer are related to comorbidity of meningoencephalitis. For prognosis, older age, higher neutrophil counts, lower serum total protein, lower serum albumin, and higher CRP are correlated to death. Comorbidity of meningoencephalitis and poor outcome shares same factors.

4. Discussion

In Japan, the majority of cryptococcosis is seen in non-HIV patients. In the present study, we reviewed the clinical features of 151 pulmonary cryptococcosis in non-HIV patients in Nagasaki, Japan.

Table 5
Comparison of clinical characters of patients with or without cryptococcal meningoencephalitis and prognosis.

		Comorbid meningoencephalitis							Prognosis						
		Without meningoencephalitis			With meningoencephalitis			Wilcoxon test	Improved			Died			Wilcoxon test
	Criteria	*n*	Median	IQR	*n*	Median	IQR	*p* Value	*n*	Median	IQR	*n*	Median	IQR	*p* Value
1	Age	110	54.5	30.0	14	67.5	15.0	0.004	123	55.0	30.0	13	69.0	13.0	0.004
2	lymphocyte counts	98	1914.0	1006.0	11	1023.0	926.0	0.005	108	1874.0	992.5	11	1370.0	2792.0	0.26
3	Neutrophil counts	99	3355.0	2658.0	11	7626.0	4280.0	0.001	109	3780.0	2780.0	11	7832.0	4908.0	0.003
4	IgG	61	1290.0	661.0	5	1140.0	468.0	0.78	63	1307.0	600.0	5	1343.0	694.0	0.87
5	IgM	61	142.0	79.0	5	103.0	115.3	0.33	63	142.0	81.0	5	157.0	115.3	0.80
6	IgA	60	259.0	179.0	5	328.0	133.0	0.74	62	259.0	167.0	5	454.0	256.0	0.34
7	Total protein	88	6.90	0.90	11	5.90	1.50	0.02	99	6.90	0.90	10	5.30	0.50	0.0003
8	Serum albumin	82	4.10	0.80	9	3.10	1.60	0.01	90	4.10	0.80	8	2.65	1.13	0.0006
9	CD4/CD8	60	1.47	0.74	3	0.96	0.43	0.03	61	1.45	0.72	5	1.34	0.85	0.45
10	CRP	69	0.26	1.02	4	10.59	13.44	0.004	76	0.29	1.08	5	4.12	12.29	0.003
11	Cryptococcal antigen	90	16.00	120.00	7	1024.00	1920.00	0.02	103	16.00	252.00	11	128.00	1016.00	0.15
12	CD4 counts	30	719.50	474.60	1	421.50		0.30	34	734.60	480.80	1	95.00		0.09

IQR: Inter Quartile Range, CRP, C-reactive protein.

Roughly half of the cryptococcosis patients did not have underlying diseases and almost half of patients (82/151, 54.3%) without respiratory symptoms were found accidentally by mass screening examination or routine chest X-ray check. In Japan, there is a unique medical insurance system which allowed people easy and cheap access to medical examination or annual medical check. This background may cause the potential bias in this study.

It is generally recommended that HIV-negative patients with cryptococcal pneumonia undergo routine lumbar puncture to attempt to identify asymptomatic or subclinical CNS involvement that may require more potent or aggressive therapy [13]. However, 2010 updated IDSA guidelines commented as follows, "In non-immunocompromised patients with pulmonary cryptococcosis, consider a lumbar puncture to rule out asymptomatic CNS involvement. However, for normal hosts with asymptomatic pulmonary nodule or infiltrate, no CNS symptoms, and negative or very low serum cryptococcal antigen, a lumbar puncture can be avoided (B-II)" [14]. Of the 14 patients with cryptococcal meningoencephalitis in this study, 4 did not have underlying disease. Six patients with meningoencephalitis were dead (eight were survived) and the correlation between comorbidity of meningoencephalitis and poor outcome shares same clinical factors. However, the possibility of existence of meningoencephalitis links significant poor prognosis was not evaluated due to the low number of cases. Of those, 1 patient had solitary nodules, 1× negativity for cryptococcosis antigens, and no CNS disorders. We believe that the necessity of CSF examinations should be debated thoroughly. There has been ongoing discussion regarding the need for lumbar punctures in patients without CNS symptoms. The 2007 Guidelines [15] also recommend lumbar puncture to identify asymptomatic CNS involvement.

To our knowledge, this review of pulmonary cryptococcosis constitutes the largest report to date describing and comparing chest CT findings in non-HIV patients both with and without underlying diseases. Additionally, since many cases were diagnosed from mass screening check-up, it is important to investigate the unique features of radiological findings. Similar to recent studies of immunocompetent hosts [16–19] and non-AIDS individuals [11,20,21], the most common CT feature was the presence of peripherally distributed multiple pulmonary nodules or masses with predominant lower lobe involvement in both patients without and with underlying diseases Although the number of nodules or masses in previous reports has varied, there was no significant difference in the frequency between multiple nodules or masses (type II) and single lesions (type I) in our series. Multiple nodules or masses distributed in multiple lobes (type IIb) also tended to occur more frequently in patients with underlying diseases than in patients without underlying diseases.

Cryptococcal antigen is widely recognized to have both diagnostic and prognostic value for cryptococcosis. Lu et al. reported on the CSF titer change in the latex agglutination test before and after therapy in non-HIV cryptococcal meningitis. The cryptococcal antigen titer in CSF decreased after therapy for every case and correlated with fungal clearance; however, cryptococcal antigen can remain at low titers for long periods after therapy, even when fungal smear and/or culture become negative. Previous study suggested that the cryptococcal antigen test may not be used as an index of cure [22].

In this study, serum cryptococcal antigen in pulmonary cryptococcosis patients can remain at low titers for long periods after therapy. However, the titers continuously decrease after effective therapy. Our data demonstrate that the cryptococcal antigens in pulmonary cryptococcosis remain detectable even months following successful therapy, suggesting that the cryptococcal antigen test may not be used as an index of cure or decision of discontinuation of treatment.

The first line antifungal drugs were selected because the facilities that reported these cases were conducting clinical trials for antifungal drug development. Moreover, because the guidelines for cryptococcosis management had not yet been presented before 2007, azole-type drugs + 5-FC were used as pulmonary cryptococcosis treatment for a certain period even in patients without meningoencephalitis.

After the 2007 Guidelines [15] was published, treatment was conducted according to these guidelines' recommendations.

The IDSA guideline for pulmonary cryptococcosis in non-HIV, non-immunosuppressed patients states that for mild-to-moderate symptoms, fluconazole (400 mg/day orally) should be administered for 6–12 months; persistently positive serum cryptococcal antigen titers are not criteria for continuance of therapy (B-II) [14]. Conversely, the 2007 Guidelines recommend administering 400 mg/day oral fluconazole for 3 months for immunocompetent pulmonary cryptococcosis patients, and for 6 months for patients with underlying disease [15].

In our experience, with the exception of some severe cases, the duration of treatments as recommended in the 2007 Guidelines [15] appears appropriate.

In the management of pulmonary cryptococcosis in non-HIV patients, it is important to confirm the presence of underlying disease and encephalomeningitis complications, and a careful treatment plan for patients with severe underlying diseases.

Conflict of interest

SK received honorarium, consultation fees and research grants from Pfizer Inc., and Dainippon Sumitomo Pharma Co.

HK received honorarium from Pfizer Inc. and Dainippon Sumitomo Pharma Co.

KI received honorarium from Pfizer Inc., and Dainippon Sumitomo Pharma Co.

TM received honorarium from Dainippon Sumitomo Pharma Co.

YY received honorarium from Pfizer Inc., Dainippon Sumitomo Pharma Co.

KY received honorarium, consultation fee and research grant from Pfizer Inc., and Dainippon Sumitomo Pharma Co.

YM received honorarium and research grant from Dainippon Sumitomo Pharma Co., and Pfizer Inc.

SM received honorarium, consultation fee and research grant from Pfizer Inc., and Dainippon Sumitomo Pharma Co.

KM, AY, TT, MM, MU and KA: none to declare.

Acknowledgments

The authors are grateful to Sayo Kubota, MD, and Michiko Inuzuka, MD, for supplying valuable clinical cases; and to Tetsuji Yamaguchi, MD, and Aya Fukushima, MD for their helpful discussions and suggestions.

This work was partly supported by Ministry of Health, Labour and Welfare Sciences Research Grants (H25-Shinko-ippan-006 and H23-Shinko-ippan-018), and by a Grant-in-Aid for Scientific Research from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology of Japan (B; 21390305), (C; 25461516).

References

[1] Kuroki M, Phichaichumpon C, Yasuoka A, Chiranairadul P, Chosa T, Sirinirund P, et al. Environmental isolation of *Cryptococcus neoformans* from an endemic region of HIV-associated cryptococcosis in Thailand. Yeast 2004;21:809–12.

[2] Sarosi GA. Cryptococcal pneumonia. Semin Respir Infect 1997;12:50–3.

[3] Levitz SM. The ecology of *Cryptococcus neoformans* and the epidemiology of cryptococcosis. Res Infect Dis 1991;13:1163–9.
[4] Woodring JH, Ciporkin G, Lee C, Worm B, Woolley S. Pulmonary cryptococcosis. Semin Roentgenol 1996;31:67–75.
[5] Kerkering TM, Duma RJ, Shadomy S. The evolution of pulmonary cryptococcosis: clinical implications from a study of 41 patients with and without compromising host factors. Ann Intern Med 1981;94:611–6.
[6] Rozenbaum R, Goncalves AJ. Clinical epidemiological study of 171 cases of cryptococcosis. Clin Infect Dis 1994;18:369–80.
[7] Campbell CD. Primary pulmonary cryptococcosis. Am Rev Respir Dis 1966;94:236–423.
[8] Doutsu Y, Maesaki S, Masuyama Y, Yamashita K, Oka M, Koga H, et al. Clinical and therapeutic studies in eleven cases of pulmonary cryptococcosis. Nihon Kyobu Shikkan Gakkai Zassi 1987;25:229–39.
[9] Pappas PG, Perfect JR, Cloud GA, Larsen RA, Panker GA, Lancaster DJ, et al. Cryptococcosis in human immunodeficiency virus-negative patients in the era of effective azole therapy. Clin Infect Dis 2001;33:690–9.
[10] Viriyavejakul P, Tangwanicharoen T, Punpoowong B, Chaisri U, Wilainam P, Nuntakomon D, et al. Cryptococcal meningitis in human immunodeficiency virus (HIV)-positive and HIV-negative patients. Southeast Asian J Trop Med Public Health 2004;35:33–8.
[11] Chung WC, Tzao C, Hsu HH, Lee SC, Huang KL, Tung HJ, et al. Pulmonary cryptococcosis: comparison of clinical and radiographic characteristics in immunocompetent and immunocompromised patients. Chest 2006;129:333–40.
[12] Hansell DM, Bankier AA, MacMahon H, McLoud TC, Müller NL, Remy J. Fleischner Society: glossary of terms for thoracic imaging. Radiology 2008;246:697–722.
[13] Saag MS, Graybill RJ, Larsen RA, Papas PG, Perfect JR, Powderly WG, et al. Practice guidelines for the management of cryptococcal disease. Infectious Diseases Society of America. Clin Infect Dis 2000;30:710–8.
[14] Perfect JR, Dismukes WE, Dromer WE, Goldman DL, Graybill JR, Hamill RJ, et al. Clinical practice guidelines for the management of cryptococcal disease: 2010 update by the infectious diseases of America. Clin Infect Dis 2010;50:299–322.
[15] Guidelines for deep-seated mycoses in Japan 2007. Tokyo, Japan: Kyowa Kikaku Ltd.; 2007.
[16] Murayama S, Sakai S, Soeda H, Yabuuchi H, Masuda K, Inoue H, et al. Pulmonary cryptococcosis in immunocompetent patients: HRCT characteristics. Clin Imaging 2004;28:191–5.
[17] Lindell RM, Hartman TE, Nadrous HF, Ryu JH. Pulmonary cryptococcosis: CT findings in immunocompetent patients. Radiology 2005;236:326–31.
[18] Fox DL, Muller NL. Pulmonary cryptococcosis in immunocompetent patients: CT findings in 12 patients. AJR Am J Roentgenol 2005;185:622–6.
[19] Choe YH, Moon H, Park SJ, Kim SR, Han HJ, Lee KS, et al. Pulmonary cryptococcosis in asymptomatic immunocompetent hosts. Scand J Infect Dis 2009;41:602–7.
[20] Kishi K, Homma S, Kurosaki A, Kohno T, Motoi N, Yoshimura K. Clinical features and high-resolution CT findings of pulmonary cryptococcosis in non-AIDS patients. Respir Med 2006;100:807–12.
[21] Wu B, Liu H, Huang J, Zhang W, Zhang T. Pulmonary cryptococcosis in non-AIDS patients. Clin Invest Med 2009;32:E70–7.
[22] Lu H, Zhou Y, Yin Y, Pan X, Weng X. Cryptococcal antigen test revisited: significance for cryptococcal meningitis therapy monitoring in a Tertiary Chinese hospital. J Clin Microbiol 2005;43:2989–90.